



自治労連 四国ブロック協議会  
香川県事務所ニュース

〒760-0068 高松市松島町1丁目17-10  
瀬戸内ビル2F  
Tel.087-833-7501 Fax.087-833-7533  
E-mail:koumuippan@festa.ocn.ne.jp  
http://www.geocities.jp/koumuippan/

## 自治労連 第31回定期大会開かれる

結成20周年記念大会として、9月5日 事前会議  
9月6日～7日 本会議が東京で開催



大会では「自治労連運動の20年を 確信に、国民の願いの実現めざし、憲法と地方自治が生きる職場と地域をつくらう」をスローガンに、職場で仕事を語り、地域に出て「対話と提言」運動をすすめ、要求実現と組織強化を一体に取り組みることなど、新政権下で国民の期待にこたえる諸政策の実効ある実現にむけて、引続き改憲、「構造改革」の政治からの転換を国民運動の一翼として全力を挙げる大会宣言を採択しました。

全国の仲間から、憲法キャラバンで首長から9条・25条・27条遵守で行政に生かし、派遣切り労働者を採用。市営バスの民営化に伴う非正規職員の組織化。保育カーニバル・給食祭りなど地域の人に仕事を知ってもらい一緒に考える取り組み。おきプロから次世代育成につながった報告。地域循環型経済にむけて地域調査の取り組み。命と地域を守る大運動で地域医療の充実に患者・地域住民との共同運動。合併に伴う職員のメンタル問題で復帰プログラムの作成、自治体構造改革の学習で公務・公共の役割から人員増の取り組み。青年部・医療部会・都市部会など補助組織・共闘組織・職域組織の事前会議報告がありました。

また、地方組織 賃金担当者会議では、09人事院勧告の内容と秋季年末闘争の基本について報告し質疑応答など行い意思統一を図りました。

討論はみな生き生きした体験報告で、自治労連運動方針の実践を、職場で知恵を出し合い、苦労をされた発言は、胸にしみ励まされました。

役員改選が行われ、新中央執行委員長に野村幸裕氏(前書記長) 副中央執行委員長に大場みゆき氏、柴田英二氏、山口毅氏、山口祐二氏 新書記長に猿橋均氏(大阪自治労連) 書記次長に後藤重人氏、中川悟氏が選任されました。

### 今後の予定

- 9月14日(月) 13:30～四国ブロック(協)幹事会：高知
- 10月16日(金) 四国ブロック現業(協)幹事会
- 10月18日(日) 13:00～香川県労連定期大会：高松市民文化センター
- 10月23日(金) 18:30～高松市中心部の公的医療を考える会：亀阜コミュニティセンター
- 11月6日～7日(土) 第14回自治体病院全国大会：福岡 原鶴温泉

# 自治労連医療部会報告

9月5日 大会事前会議として開催

私たちがこの間取り組んできた「医師・看護師増やせ」の大増員闘争は、医師不足・看護師不足を明かにし医療現場が崩壊の危機にあることを社会問題に押し上げ、医師不足を解消するため医学部定員を七百名増員させる成果をあげました。引き続き看護師確保・処遇改善の「制定・改正」をめざす運動の強化を提起しました。



また医療現場では、公立病院改革プランの策定で「経営の効率化」「再編ネットワーク化」「経営形態の見直し」など地域医療の崩壊を加速させています。しかし、私たちの運動の「いのちと地域を守る大運動」がすすめてきた自治体キャラバンは自治体首長や病院関係者などの要求と一緒に、総務省に「公立病院に関する財政措置の改正要綱」をつくらせ、交付金七百億円の増額措置をさせました。

新政権の下、雇用や社会保障を崩壊し、国民から安心と希望を奪った「構造改革」路線を改め、地域医療の充実を引続き、国民と自治体労働者の要求実現のために奮闘することを確認しました。

# さぬき市民病院学習会

8月20日さぬき市民病院で、「自治体病院をめぐろう」と題して私たちの役割と題して学習会が開かれました。講師は高田なお子さん（自治労連中央執行委員）。高田さんは以前、京都市立病院で看護師として勤務されていました。

住民や患者アンケート、訪問調査の実施  
住民と共同でシンポジウムや集会の開催  
自治体病院の財政分析の4点が提起されました。

このような住民との共同の運動により、厚労省や総務省も医師不足による経営悪化を認めだしました。

まず最初に、自治体病院の現状は  
悪 診療報酬の度重なる改  
悪 三位一体改革による自治体財政の悪化  
悪 医師抑制政策による深刻な医師不足  
この三重苦にあえいでいるという事です。

これからの取り組みとして、住民と共に地域医療確保の運動の継続や、働きがいのある職場づくりをすることを強調されました。

この運動の内容は、具体的に総行動と連携し自治体や病院への要請

また、「住民（患者）の幸せなくして、労働者（医師・看護師）の幸せはない」という言葉で締めくくられました。